

環境まちづくり 会報

編集・発行／入間市環境まちづくり会議



「環境まちづくりの第一歩、ゴミゼロに向かって行動しよう」をテーマに、入間市環境まちづくり会議が主催した「環境ウォーキング」が、昨年11月16日（土）、73名が参加し行われた。ウォーキングは、仏子のアミゴを出発する散策コース（約4キロ）、入間市役所を出発する健脚コース（約6キロ）、藤沢公民館を出発するいろいろなコース（約7キロ）、宮寺地区体育館を出発する茶畑コース（約

環境ウォーキング開催

ゴミゼロに向かって行動しよう

6・5キロ）、そして金子公民館を出発するらくらくコース（約3キロ）の5コースに分かれ、目的地的農村環境改善センターを目指した（芋煮を目指した人も？）。

早朝降っていた小雨も出発時には止み、歩くには最適な一日となった当日、参加者それぞれがゴミ入れ用袋を手にゴミを拾いながら、各コースの街並みや緑、道路状況など見ながら環境チェックをして歩いた。

参加者からは、「ゴミが多く捨てられていた」という意見が多く聞かれ、また「みんなと歩くのは楽しい」「多くの人が参加して行動することの良い」「芋煮がおいしかった」「道路沿いのゴミが多かった（ポイ捨てか？）」などの意見が出た。

参加者が一番多かった散策コースは、「紅葉がきれいで、ゴミを拾うのを忘れた」（参加者談）とい

集められたゴミを分別している環境まちづくり会議の委員ら



ウォーキング後、農村環境改善センター前に集合した参加者



う自然が豊かな加治丘陵を歩き秋を満喫し、また桜山展望台で、市が計画している「加治丘陵の保全と活用」の説明を受けた。

集められたゴミは雑多を極め、分別作業も一苦労。一番多かった空き缶をはじめ、タバコの吸

設、ビン類など220kgの量の集められたゴミは2台のトラックでクリーンセンターへ運ばれた。

歩いた後の芋煮は本当においしかった。3杯、4杯とお替りする人が大勢いた。

入間市のゴミ問題を考える

第2回 環境市民講座開催

「入間市のゴミ問題を考える」をテーマに、1月25日から3月8日までの間、4回に分けた講座が、入間市と入間市環境まちづくり会議の共催により、扇町屋公民館にて開かれた。1月25日の1回目は、「入間市におけるゴミ処理の現状と課題」と題し、「地球を守る3R大作戦」などの著書がある山本耕平氏（ダイナックス都市環境研究所代表）と入間市職員の長澤利一氏が講演。

市清掃課の長澤氏は、入間市のゴミ量の推移やゴミの現状と市民や事業所の役割、リデュース、リユース、リサイクルのいわゆる3R推進などゴミの減量策について説明した。

また、「ごみの減量化・資源化に関する行動計画」の実行を目指す入間市の取り組みを紹介し、今後の課題を明示した。

山本先生は、「全国的に見て、ごみ量は最大、リサイクル率も最大ということは何を意味しているか。大量生産・大量消費・大量廃棄される社会構造そのものが変わっていないところに原因があるのではないかと述べ、ゴミ問題や環境問題の解決には、

ガバナンス（公民協働）で経済の仕組みを変える必要を説いた。また、「入間市での多くの取り組みが実らないのはなぜか」そのなを公民協働で話し合い、その基本となる考え方を、「ただ単なる循環社会基本法」ではない、物だけをリサイクルすれば良いということではなく、背後にあるものを考えるような「自然循環社会基本法」にしていこうことが重要と述べた。

講演の後、参加者から「事業系一般廃棄物処理の手数料の設定について」の質問があり、山本先生は、「自治体によって差があるが、高く設定するところの方が、ゴミ問題や環境問題への関心が高く、政策的に解決の方に向ける意志が働いている。」また、その方が「環境ビジネスも生まれる」と述べた。

環境市民講座二回目

2月8日の第2日目は、山本耕平氏が、「先進自治体の取り組みの事例からゴミ問題解決の糸口を探る」と題して、名古屋市と東京の早稲田商店街を上げて説明した。

名古屋市の取り組み

名古屋市のゴミ処理先進都市

になった契機は、1981年に、それまで利用していた岐阜県多治見市のゴミ最終処分場が満杯になり、新たなゴミ最終処分場の建設が必要となり、候補地として藤前干潟を選定して発表した。ところが、ここに住む生物と渡来する鳥を保護することへの関心が高まり、国は、藤前干潟を重要渡来地に指定した。

1999年、松原名古屋市長は、藤前干潟を最終処分場にすることを断念し、干潟を守ると宣言した。そして、ゴミ問題は行政だけの責任では解決しない、市民にも責任がある、とゴミ非常事態宣言をし、ごみ減量目標の設定や新資源として回収方式の設定などの施策を打ち出し、10年で10%の削減を目標とした。

市民の取り組みとして、スパーの駐車場の一部を借りて、リサイクルステーションを設定し、回収を集団する方式を取り、ボランティアのリサイクルラーを募集、環境学習と実行を実施した。

商店街も有力デパートの社長が、ゴミ削減の支援を事業所挙げて協力する旨をし、マスコミがこれを取り上げ、市民の動きも一挙に加速した。その結果、10年で10%削減の目標は1年で



達成されただけでなく、20%にも及んだ。また、大門商店街は、ゴミ削減に協力した人にエココイン（割引券1枚で10円のサービス）を発行するなど、事業所、市民、行政がゴミ問題を共有した。

早稲田商店街の取り組み

早稲田商店街（約500店舗）は、早稲田大学を控え、夏・冬の休みになると売上が減少する。その対策として、早稲田大学のキャンパスを借りてエコサマーフェスティバル（ボトルや生ごみを入れると商品が出るごみ処理機を設置）を開いた。これを

拡大して、商店街にエコステーションを設置し、ラッキョーチップト（今日の買い物が無料になるかもしれない）を発行、利用度を挙げる工夫をした。その他、地域通貨や様々な工夫をし、ゴミゼロ運動を展開しながら商店街の活性化を目指している。

3、4回目は田中勝氏（岡山大学大学院教授）が講演。

▼中学生も講座に参加



入間市発行の冊子紹介

問い合わせは、市環境課まで☎964-1111代

「絵でみる環境」

環境問題とその原因や取り組む方法、私たちが自然や環境とつながり、やさしく紹介している冊子。



意見交換会の開催とその成果

開催とその成果

昨年5月の環境まちづくりの会議の総会後、実施した会員同士の意見交換会において、環境問題にかかわる様々な意見が出されたが、その中でもゴミに関する意見が多くあった。そこで、この問題について会員同士が継続的に議論を行い、また具体的な行動が生み出される機会をつくっていかうと考え、環境市民講座の実施と合わせて、意見交換会を企画した。テーマは「人間のゴミ、今私たちにできる事」。市民生活におけるゴミ問題を扱った。環境市民講座のあと2回の意見交換会を催した。参加者は15人程度。環境市民講座のテーマが「人間のゴミ問題を考える」



ということもあって、講座での学習成果も踏まえ、活発な意見交換が行われた。

1回目の意見交換会では、ゴミ問題に対する参加者どうしの共通認識を作るようにポストイットを用いたワークショップ形式を進める。ゴミ問題に対するいろいろな意見が出されたが、最終的に「ゴミ問題に対する啓発と行動」「ゴミ収集の有料化と収集方法」「生ゴミの減量と活用」を大きな柱にすえ、これらのことを集約的に意見交換することにした。2回目の意見交換会は、1回目途中でなくなった「生ゴミの減量と活用」を中心に意見交換を進める。

出された意見は、市民生活から見たゴミ問題に関する素朴な疑問、身近な解決策の提案、地域の仕組みづくりへのアイデアなどの多様性に富み、どれも実践的な取り組みで得られた知見や、学習活動で蓄積された知識などに裏づけされたものである。さらに出された意見には、市民の知恵や意欲をつなげ、行動力に変えていくことの重要性を指摘するものがあった。

今回の意見交換会の成果を受けて、環境まちづくり会議では市民のゴミ問題に対する行動を喚起し、実践するグループづくりに取り組む時期に来ていると考える。5月に予定される総会において、このグループづくりにかかる議案を出すことになろう。

意見交換会で柱となった議題

ゴミ問題に対する啓発と行動

- ・学校教育
- ・商店への啓発
- ・自治会単位の啓発
- ・市報でのキャンペーン 等々

ゴミ収集の有料化と収集方法

- ・ゴミ排出量の点検
- ・有料化の是非の検討 等々

生ゴミの減量と活用

- ・水切りで生ゴミ減量
- ・農業振興と堆肥化
- ・市内のファミレス、デパート等々と協力して実験 等々

最近の生ゴミ処理の取り組み

ゴミ対策にはいろいろな取り組みが行われている。今回の意見交換会において、生ゴミ対策についての意見が多く出たので、最近の生ゴミ対策の取り組みを紹介する。生ゴミ処理には、堆肥化やエネルギー化などがあり、堆肥化では、山形県長井市の「台所と農業をつなぐ計画」(レインボープラン)が有名だが、ここでは、狭山市の取り組みと、その他4地域の取り組みを紹介する。

狭山市

リサイクル都市を宣言している狭山市は、生ゴミ拠点リサイクルモデル事業を平成12年から始めた。集合住宅200世帯が参加し、生ゴミ処理機2機を配置した。できた堆肥は、参加者が花壇などで利用している。

また、昨年からは、家庭から出る生ゴミの堆肥化促進のため、個別収集事業も始めた。当初11地区300世帯が参加した(10世帯以上参加し、一つの地区を設定)。参加する家庭で、抗酸化溶液配合のバケツに入れていた生ゴミを、週1回収業者が回収し、生ゴミ処理機で一次処理する。それを肥料メーカーが買い取り、二次処理し堆肥にしている。

現在、参加世帯が1300に増えている。

福川市

15年度から市内全小中学校12校に生ゴミ処理機を設置。堆肥化し、市内の牧場で牛ふんと混合、堆肥としている。

武蔵野市

市は、新築する50戸以上の大規模集合住宅では、生ゴミ集中方式で集める設備で減量・資源化の指導指針を出した。堆肥化物は、市の負担で二次発酵業者が回収して堆肥にし、市内14戸の農家で利用している。

上越バイオマス循環事業協同組合

農家、米販売業者、スーパー、ホテルなどが参加し協同組合設立。レストラン、スーパーから出る生ゴミを収集し、生ゴミ堆肥製造プラントで堆肥にし、農家で利用。

農産物を組合員のスーパー、レストランで利用や販売をしている。

エコ発電「エキシー」

都内のホテルやスーパーなどから出る生ゴミを、各所に設置したゴミタンクで破碎・液状化しバキュームで回収。発電センターで発酵させガス化し、燃料電池によって発電する。

環境問題に関する

「いるましの環境」

平成12年に人間市が策定した「環境基本計画」の進みぐあいをまとめた報告書。



会員の声

人間のゴミは非常事態？

環境問題は厄介な問題ですね。私たちが生きて行くこと自体が環境問題の根源だからです。

以前、オストランド社の八太さんの本「ごみから地球を考える」を読みました。そこには、すぐ隣の瑞穂町のゴミ戦争が生々しく描かれており、非常事態にならないと何も動かない現実、実際にショックを覚えました。その後、瑞穂のゴミは瑞穂内で処理することを掲げて活動し、ゴミ問題の先進自治体となっていくことを知りました。

最近、環境市民講座を聴講しました。講師の方のお話ですが、環境問題への関心は何か非常事態が発生しないとなかなか盛り上がり上がらない。名古屋はゴミ処分のために干渉理め立てを計画したが反対運動が起こり、埋め立ては中止となってしまった。その結果ゴミ減量が緊急課題として浮かび上がってきた。しかし、マスコミでも大きく取り上げられ、市民の関心が高くなってきたおかげで、1年間で2割近く

のゴミが削減されたとのこと。

瑞穂や名古屋に比較して入間市の現実はどうだろうか？ クリーンセンターの長澤さんの話では、木蓮寺の最終処分場はすでに半分埋まり寿命はあとわずか8年。その後は捨て場がないとのこと。まして入間市のゴミは毎年増加傾向にあり、すでに市外そして県外にも運び出されているのです。処分場の建設には時間がかかります。入間市のゴミは大幅な削減をしなければならぬ非常事態にあるのではないのでしょうか。

入間市では一人1日100g(約10%)のゴミ削減を進めています。しかし、その事実を知っている人はどのくらいいるのでしょうか？ もっともっとゴミの危機を伝える必要がありますし、ゴミ問題はもう考える時を過ぎ、一人ひとりが具体的に活動する時期が来ているのではないのでしょうか。

(三ツ木台 剣持和夫)

凛として、真摯に

寅さんシリーズで有名な山田洋次監督の映画「たそがれ清兵衛」が、昨年の秋から上映されている。時代小説家、藤沢周平の名作をベースに、誰かを大切に思う心、目立つことのない本

当の勇氣や誇りなど、現代人に失われた「心」が描かれている。真田広之演じる清兵衛が、囲

炉裏にかけられた鍋からよそった茶碗の粥をすすり、最後にその碗に湯をそそぎ、ていねいに沢庵でぬぐい湯と一緒に飲む。赤貧のなかにも暖かい団欒と、凛とした心が清兵衛にも子供たちにもある。与えられた人生を真摯に歩む。出世より家族への愛。そのような清兵衛がそこに

いる。「本当の幸せとは何か」を問いかけるこの映画。環境問題を起こさせた、高度な経済成長、使い捨て時代、そのはての心の荒廃を考えると、本当の幸せを私たちは享受しているのだろうか。清兵衛の生き方こそ、本当の幸せがあるのではないのでしょうか。現代の私たちが忘れて去っている清兵衛の心、そのような「心」を大切にしたい。

釈迦の教えのなかに、「教えのかなめは、心を修めることにある。だから、欲を抑えて、己に克つことに努めなければならぬ。身を正し、心を正し、言葉

を誠あるものにしなければならぬ。貪ることをやめ、怒りをなくし、悪を遠ざけ、常に無常を忘れてはならない」と説いている。人間の欲望は、放っておけばどんどん膨らんでしまう。その欲望をどう抑えるかが問われている。

編・集・後・記

●ご覧下さい

入間ケーブルTVの水・ダブルサイト「入間市元気ねっこ」に「入間市環境まちづくり会議」のホームページができました。

造に改革するなど、環境問題の解決なくして進みません。私たちは、環境問題に対するより一層の意識向上を図り、持続可能な社会を創りあげねばならない。
(牛沢町 平田和雄)

寒さも和らぎ花粉症と悪戦苦闘の私ですが、皆さんはどうお過ごしですか。花粉症は大丈夫ですか。先日、新聞を見ていましたら拡大製造者責任 Extended Producer Responsibility (EPR) という用語が目に入りました。勉強不足だと思いますが、私には意味が分かりませんでした。調べてみると、製造者は製品に環境への影響を配慮した設計・製造を行い、その製品のライフサイクルや最終廃棄まで責任を持つとの事でした。その他、環境の関係を少し調べたらグリーンGDP、LCA(ライフサイクルアセスメント)、環境スワップなど30以上出てきて驚きました。もし、皆さんも新聞などに分からない用語が出てきましたら、なるべく調べるようにして下さい。次に2月から3月にかけて開催いたしました環境市民講座も皆様のご協力をいただきました。今後とも、ご協力の程よろしくお願いたします。また、会報についてのご意見・ご希望がありましたら環境課の事務局まで、ご連絡をお願いします。

井上

15年度入間市環境まちづくり

会議の総会が5月28日(水)
午後2時から産業文化センターにて開かれます。

入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課
住所：〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号
TEL：042-964-1111(内線1241,1243)
FAX：042-965-0232
E-mail：kankyo@city.iruma.saitama.jp

●会員数	(平成15年3月現在)
408人	人
内訳	
	市民 160
	事業者 171
	民間団体 50
	行政関係 27

